

UD(ユニバーサルデザイン) 旅行コーディネーター育成講座

# UD旅行計画、立案、 遂行、体験談等

2009年10月27日(火) platform01

講座担当: 伴流 高志

## ● 講座担当者紹介

### 資格>

2007年08月 上級救命講習受講

2007年07年 認知症サポーター講習受講

2006年07年 失語症会話パートナー基礎講習受講

2000年03月 介護福祉士

(1997年4月NHK学園高等学校専攻科社会福祉コース入学/1999年3月卒業)

2001年05月 福祉用具プランナー

2000年11月 福祉住環境コーディネーター2級

### 活動>

2005年-2007年 もっと優しい旅への勉強会 副代表(1996年より会員)

### 経歴>

2008年 株式会社エイチ・アイ・エス入社 バリアフリートラベルデスク配属

2006年 あ・える倶楽部(SPI株式会社)入社 旅部門担当(介護旅行)

2004年 近畿日本ツーリスト株式会社よりクラブツーリズムカンパニーが独立

1997年 近畿日本ツーリスト株式会社クラブツーリズム入社 福祉課配属  
※現、バリアフリー旅行センター

1994年 株式会社ユナイテッドトラベルスタディサービス入社 旅行事業部配属

## はじめに

わが国の「観光分野におけるユニバーサルデザイン化」について、外国人旅行者への対応に関しては、「観光立国行動計画」等に基づき、様々な取組みが進められてきているものの、高齢者や障がいがある人が、移動制約等で何らかの配慮が必要な旅行者に対しては、十分な対応がとられていないのが実情です。

旅行者が多く利用する旅行商品については、近年、主として車いす利用者等に適したバリアフリー旅行商品が出てきているものの商品数や価格等の点で十分とは言えず、一方で、現行の一般的な旅行商品では、車いす利用の場合や高齢で歩行能力に問題がある人の参加が多いため旅行参加の機会が少ない現状があります。この課題克服のためには、バリアフリー旅行商品の充実とともに、一般旅行商品において出来る限り多様な人が参加しやすい配慮を整えた旅行商品の開発が必要である。

また、観光地側では、バリアフリー化された交通機関・観光施設等の整備は進んできているものの、まだそれが十分ではないことに加えて、観光資源である歴史的環境や自然環境については、資源の保全や景観の観点から容易にバリアフリー化できない場合も多いことから、そうした状況を補完するために、例えば人的介助等のソフト面の充実等、行政・NPO等、地域の関係者が連携をして、できることから始める受け入れ態勢を作ることも必要である。

本講座においては、配慮が必要な旅行者が、「旅を思い立った時点」から、「旅行出発」、「目的地での観光行動」、「帰着」までの一連の行動に沿った配慮を念頭に、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインに配慮した旅行商品・旅行システム及び観光地のユニバーサルデザイン化を推進するためのキッカケになる情報発信・共有を行なうことを目的とします。

UD旅行  
実現



旅行環境において障がいがある方への  
①旅のカタチを増やし、  
②それぞれの品質を向上させる

<主な旅のカタチ> ※旅行会社を利用する場合

- 1、個人旅行(手配旅行)
- 2、個人旅行(募集型企画旅行)
- 3、団体旅行(受注型企画旅行)※DVD
- 4、団体旅行(募集型企画旅行)※DVD

## UD旅行計画、立案のポイントと流れ

- 1、旅の目的を確認する ①本人 ②家族
- 2、運動機能・福祉用具確認  
①現在・過去・未来、②旅行環境適応能力確認(バス乗降、客室内段差)  
③同行者の有無と総合的な介助力確認  
④旅行経験とそのときの内容・状況確認
- 3、大まかな旅行計画(バリアフリー情報は除く)
- 4、宿泊機関予約(2-②を参考) ※バリアフリー状況確認・運動機能を伝える
- 5、観光・運輸機関予約(食事場所・内容、トイレ場所・時間)  
※バリアフリー状況確認・運動機能を伝える / ※ボランティアガイドの活用(重要)
- 6、予算を確認する
- 7、出発前、行程内容最終調整は必要(天候に応じて)



## UD旅行遂行のポイントと流れ

※”また行きたい”とホンキで思える旅を演出する

<心構え> 次回の旅へ繋げる

<準備> 旅行環境における安全・快適介助スキルの向上

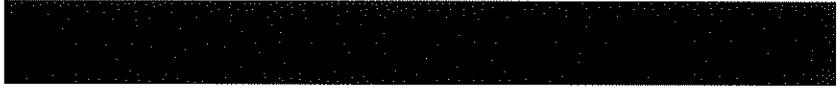
1、出会ったときから早い段階で、運動機能(現在・未来)を  
観察&旅の目的を再確認

2、出来る限り、再調整(臨機応変な対応)

3、それぞれの観光ポイントでの満足度を確認(観察)

4、(行程管理)トイレ案内(2つ先までの時間・場所を伝える)

5、(行程管理)各観光地やトイレの時間は、臨機応変にする。



## UD旅行体験談

写真スライド

## 1、「ユニバーサルツーリズムとは」

※言葉の解釈は、草薙威一郎氏によります。

### (1)ユニバーサルツーリズムの定義

ユニバーサルツーリズムの定義は、「年齢・性別・言語・国籍・能力のいかんに関わらず、全ての人が同質で同等の旅を楽しみが享受できるツーリズム」とする。

## 1、「ユニバーサルツーリズムとは」

※言葉の解釈は、草薙威一郎氏によります。

### (2)ユニバーサルツーリズムの意義

旅行者と旅行者を迎える人がお互いを敬いホスピタリティをもって接することによって、旅行者は非日常における自然や文化等多様な楽しみや体験を享受することができ、またその中から生きる意味を見出すこともある。また社会の側では、異文化間の交流、観光による経済効果、観光による社会基盤整備、平和維持等の効果によって、高度な文化社会を築く礎となる。

## 1、「ユニバーサルツーリズムとは」

※言葉の解釈は、草薙威一郎氏によります。

### (3)ユニバーサルツーリズムの具体化

ユニバーサルツーリズムの定義で述べた「同質で同等の旅の楽しみ」とは、前提として全ての人に①公平性、②多様性、③柔軟性を確保するとともに、機能的には、④旅の連続性、⑤簡潔性(理解力と情報整備)、⑥価格合理性、⑦安全性、⑧空間的余裕確保を備え、主体(旅行者)の側では、⑨旅そのもののもつ情動性(旅の感動)、⑩美的感覚等の五感による楽しみ、⑪時間的余裕(スロートーリズム)を得ることをいう。

## 1、「ユニバーサルツーリズムとは」

※言葉の解釈は、草薙威一郎氏によります。

### (4)ユニバーサルツーリズムの旅行の仕組

ユニバーサルツーリズムを実現するためには、旅行者側の旅行の計画時から、旅行出発・旅行帰着までの総合的に配慮された旅行システム整備と観光地など観光対象側の社会都市環境・自然環境の総合的なユニバーサルデザインによる環境整備が必要となる。具体的な整備項目としては、「ハード面」における交通機関や都市環境におけるユニバーサルな施設整備、及び「ソフト面」における人的サービス、情報・コミュニケーション面のサービス、医療会館サービスや非常時等の危険対応サービス等が含まれる。